

## 平和へのメッセージ

今年度、都城市戦没者・空襲犠牲者合同追悼式に参加させていただくことになり、4月から、6年生みんなで「平和」について学習を始めました。

まず、77年前に、都城でも空襲があったと知って驚きました。1945年(昭和20年)8月6日のお昼から夕方にかけてのことです。また、この日は広島に原子爆弾がおとされた日です。この日の空襲は市街地西部の焼夷弾や機関銃による攻撃からはじまり、市街地東部や庄内町への空襲、消火をしている人々を機関銃でねらいうちにするなど、4時間にわたり攻撃がくりかえされました。この空襲では56名の尊い命が奪われ、家を焼かれたりして被害を受けた人は1万7000人以上にのぼると記録されています。

私たちは5月に、平和学習で都城歴史資料館に行きました。資料館の方からお話を聞いたり、特攻隊の方の持ち物や服装、遺書を見たり、陸軍墓地や西飛行場跡、トーチカを見学したりしました。戦争が本当にあったことを実感するとともに、戦争の恐ろしさや悲惨さが伝わってきました。

7月には、戦争語り部の藤田さんのお話を聞きました。藤田さんは、戦争のとき「怖い、淋しい、悲しい、ひもじい」という思いをしたそうです。

当時の学校では、国民みんなで戦争へ向かうため、音楽の授業では、「お父さん頑張ってください。」という気持ちをこめて歌を歌っていたそうです。もし、私がお父さんのことを思って涙があふれて歌えなかったと思います。

私は、藤田さんの「今は、平和で楽しく過ごすことができ、毎日おいしいご飯も食べられます。だから、もう戦争は二度とおきてほしくありません。でも、絶対はないという保証はありません。なぜなら、今ウクライナで起きているから…」という言葉聞いて、ウクライナでの映像が頭に浮かびました。爆弾の音、銃声、人々の泣き叫ぶ声に、いつも胸がしめつけられ、どうして戦争をするのだろうと疑問に思います。

私は、戦争のない平和な未来にしたいです。爆弾や銃を使わずに、話し合いで問題を解決することが大切だと思います。これから、たくさんの方のことを学び、考え、行動していくことで平和を守っていきたいです。